

令和二年第五回薩摩川内市議会定例会 施政等の概要

令和二年第五回市議会定例会の開会に当たり、市政に対する所信と基本的な方針を申し上げます。また、今回提案いたしました令和二年度補正予算案等についてその概要を御説明申し上げます。議員各位並びに市民の皆様の御理解、御協力を賜りたいと存じます。

まず、先の臨時会において、川添公貴議長、下園政喜副議長を始め、議会運営委員会、各常任委員会・特別委員会の委員が選任され、新たな議会の構成を順調に終えられましたことは、誠に御同慶に堪えません。

また、副市長及び監査委員などの人事案件につきましても御同意をいただき、早速辞令を交付し、新しい体制をスタートさせました。ここで、改めて深く感謝を申し上げます。

市議会におかれましては、本市の施策や課題について御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私の市長選挙の公約「未来創生一〇ビジョン」は、第二次薩摩川内市総合計画を踏まえつつ、「未来創造ビジョン」と「地方創生ビジョン」の大きく二つで構成しております。

未来創造ビジョンは、「コロナ復興・スマートシティ」、

「産業経済」、「文化・スポーツ・観光」、「社会基盤」及び「定住促進・新たな国際化」の五つのビジョン、二十六の取組により、未来への発展を目指します。

地方創生ビジョンは、「人材の育成・活躍」、「コミュニティ・環境」、「健康・福祉」、「子ども・教育」及び「市役所改革」の五つのビジョン、二十七の取組により、均衡ある発展を目指します。

市長に就任いたしましたから、早くも三週間余りとなり、公約に掲げたビジョンをどのように実現していくべきか、日々考えているところではありますが、これまでの私自身の経験を踏まえ、と、最も重要なことは、私を先頭に、職員一人一人が地域の方々、事業者、農林漁業者、医療・福祉関係者など、様々な市民に寄り添い、その声に真摯に耳を傾け、対話をしていく行動の実践であると思います。

対話を通して私達自身も様々な知見を得て成長し、課題解決や施策の立案・改善に反映していくことが可能となります。広聴の実践こそが、「薩摩川内の未来創生」を実現する重要な鍵であると考えます。

これからの市政を展望いたしますと、まず、現時点での最優先の課題はコロナ禍への対応であります。全国の一日当たりの感染

者数が日々最多を更新し、再び増加傾向となっております。国・県の取組の状況等を見極めつつ、本市としても可能な限りの対応を行って参ります。

なお、本月二十七日には、本市で十例目の新型コロナウイルスの感染者が確認されたことから、同日、新型コロナウイルス対策本部会議を開催し、感染者の状況と今後の対応について協議・確認を行いました。市民の皆様におかれましては、引き続き、県や市が発出する情報に基づいて冷静な対応をお願いしますとともに、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いや手指消毒の実施、密閉・密集・密接の三密の回避など基本的な感染症防止対策を徹底していただきますようお願いいたします。

次に、令和三年度に向けては、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた準備が、政府の強い決意により進められております。本市でも、その準備状況を見極めつつ、既に受入れについて合意しております男子バレーボールアルゼンチン代表チームの事前キャンプ実現に向けた具体の調整を進めて参ります。併せて、同年度に開催される全国市町村交流レガッタ大会や鹿児島県茶業振興大会薩摩川内大会につきましても、実施に向けた調整を行って参ります。

さらに、令和四年度には、第十二回全国和牛能力共進会が、令

和五年度には、延期となりました鹿児島国体と全国障害者スポーツ大会が鹿児島県で開催されますことから、それぞれ着実に準備を進めて参ります。

一方、本市におけるハード事業として、南九州西回り自動車道につきましましては、阿久根川内道路の（仮称）湯田西方インターチェンジと薩摩川内水引インターチェンジ間の着工式が来月五日に実施予定であり、さらに、川内川市街部改修、川内川河口部の高潮対策及び川内港久見崎みらいゾーンなどの事業についても着実に進捗しつつあります。

特に、重要港湾川内港については、国の直轄事業として唐浜地区における水深十二メートルの耐震強化岸壁の新規事業化を、県と連携し、国に強く要望しているところです。

本市の十年、二十年先の発展のために必要不可欠なこれらの事業を着実に進めていかななくてはなりません。

これらと併せまして、令和六年度は、薩摩川内市市制施行二十周年に当たります。また、第二次薩摩川内市総合計画の最終年度であると同時に、令和十六年度の市制施行三十周年までの十年先を見据えた第三次薩摩川内市総合計画を策定しなければなりません。

職員には、このような中・長期的な展望と、本市が有する発展

のポテンシャルを念頭に、自信を持って「薩摩川内の未来創生」に向けた活発な政策提言を行っていただきたいと思います。

以上のような考えの下、先の臨時会でも申し上げましたが、私は、市の最も大きな役割は「将来ビジョンの実現」と「市民サービスの上昇」であると認識しており、早速、明日付けで三つのプロジェクトチームを設置いたします。

まず一つ目は、「広聴・新ビジョン調査プロジェクトチーム」です。薩摩川内市自治基本条例に定める市民との対話の場として、（仮称）令和塾を「令和デザイントーク」の名称に改めて設置し、広く市民等の意見を聴くとともに、中堅を始めとする若手職員の人材育成・政策形成能力の向上を図ります。また、この活動を通して得られた様々な知見を、令和六年度の市制施行二十周年に向けた円滑な事業推進と、令和十六年度の市制施行三十周年を目標年度とする第三次薩摩川内市総合計画の策定にいかして参ります。

なお、「令和デザイントーク」につきましては、先行して、鹿児島県飲食業生活衛生同業組合薩摩川内支部の役員との意見交換を、今月二十五日に市長室で開催しました。コロナ禍における飲食店の自助・互助の取組などの実情を聴く大変よい機会となったものと考えており、いただいた貴重な御意見は今後の対策等に

かして参ります。

二つ目は、「行財政運営プロジェクトチーム」です。本年度で薩摩川内市財政運営プログラムが終了することから、同プログラムの検証を行うとともに、今後の行財政運営についての新たな指針を策定します。

三つ目は、「行政システム調査プロジェクトチーム」です。一昨年十月に実施した本土四支所の見直し後の検証を行うとともに、来年十月に予定している甑島地域の支所再編に係る組織・体制の詳細について検討を行うことにより、多様化する市民ニーズに応え、支所管内における効果的な市民サービスを提供できる行政機能を構築します。

以上の三つのプロジェクトチームによる取組を進めながら、これからの四年間、全力を傾注して様々な施策を推進して参る所存であります。

また、国・県と連携を図りながら、施策推進に必要な財源確保を着実にを行い、健全で持続可能な財政運営に努めて参りますので、議員各位の格別なる御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ところで、私は、今月九日に初登庁以来、十日には、薩摩中央家畜市場で開催されました子牛せり市を視察し、十一日には、財

務省主計局長に対し、塩田康一鹿児島県知事と川内港の整備に係る要望を行い、併せて、熊本と鹿児島県の両県合同による南九州西回り自動車道の整備推進について要望を行いました。さらに、十二日には、森山裕衆議院議員同席の下、菅義偉内閣総理大臣に市長就任の御挨拶をさせていただきました。

また、今日二十五日には、本年の七月豪雨及び台風十号による災害を踏まえ、防災に関わる各分野の専門家から御意見をいただき、今後の防災対策にいかしていくことを目的に、薩摩川内市防災対策有識者会議を設置し、第一回会合を開催しました。

短時間の大雨や急速かつ強い勢力に発達する台風等による自然災害に対応できる災害に強いまちづくりを目指し、災害予防、災害応急対策等について検討を進めて参ります。

次に、今回の補正予算案の概要について御説明いたします。

今回の補正予算案については、一般会計において十二億五千五百五十八万五千円の減額を、八特別会計において七千九百二十二万円の増額を提案しております。

まず、一般会計につきましては、市民税等を収入見込みにより増額したほか、国・県補助金の内示、事業費の実績見込み等による歳入歳出予算の調整を行っております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な不安を

抱えて出産・育児を行う子育て世帯を支援するための経費を計上するとともに、市民生活の安全・安心を確保するための道路維持補修事業等に係る経費などを増額しております。

各特別会計におきましては、執行見込み等により所要の経費の調整を行っております。

今定例会におきましては、補正予算案のほか、地方税法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案を始めとする各議案について、御審議をお願いしております。

提案いたしました各議案等の細部につきましては、主管部・課長から説明させていただきますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。